

地方公共団体における「少子化対策地域評価ツール」を活用した「地域アプローチ」による少子化対策の推進に関する調査研究事業

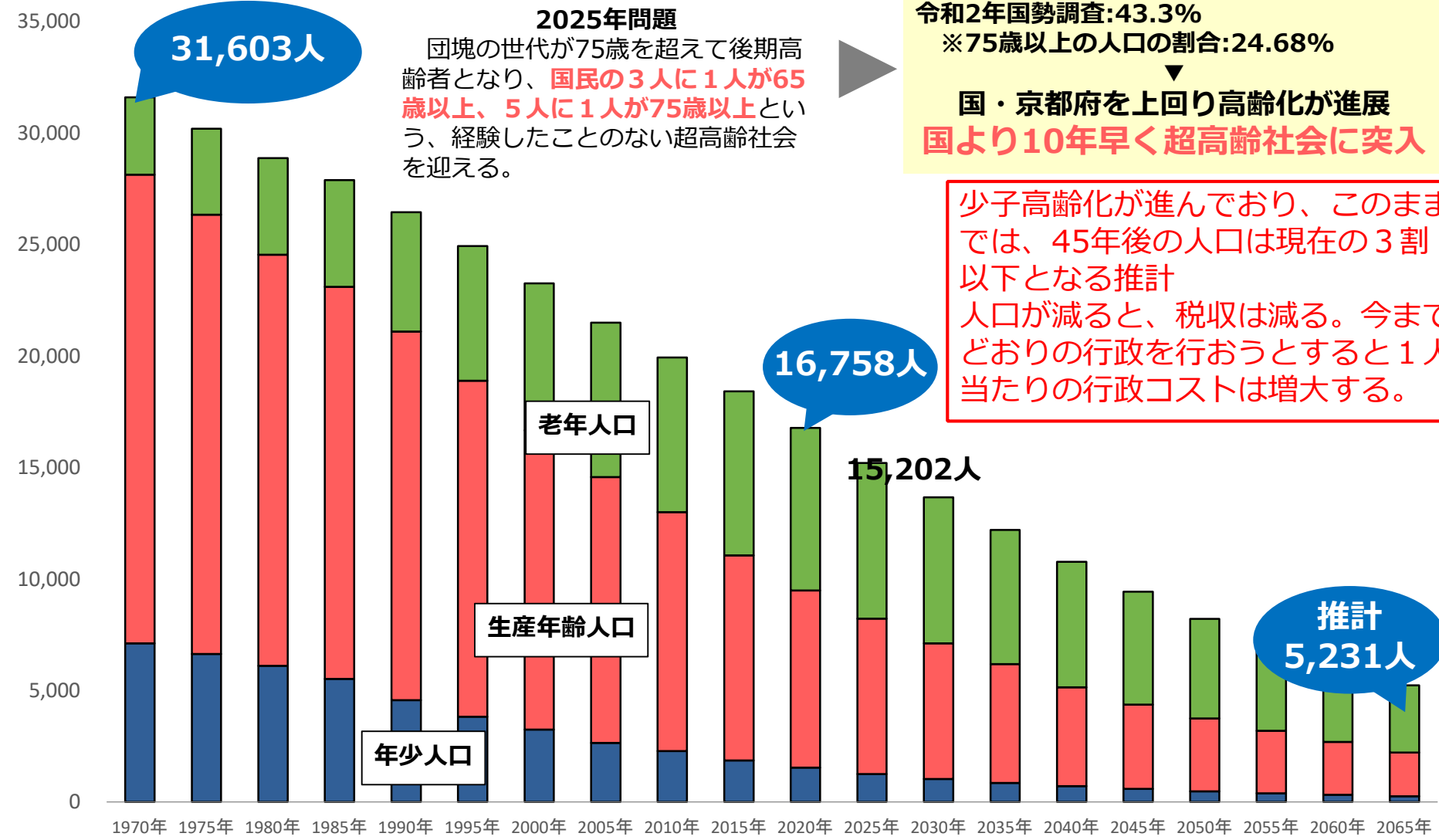
宮津市における取組プロセスについて

令和4年2月21日

日本三景・天橋立があるまち
宮津市

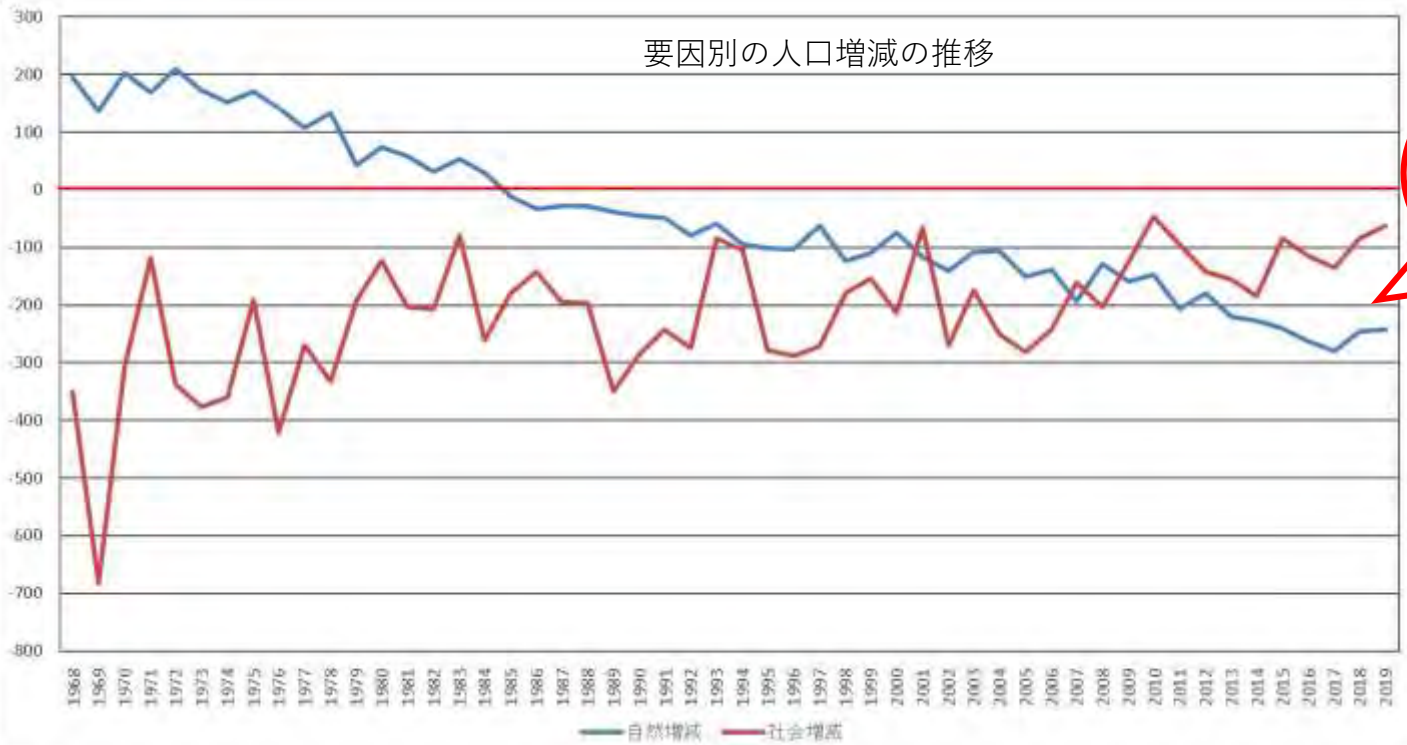
宮津市の現況

市制施行直後の昭和30年（1955年）は36,200人

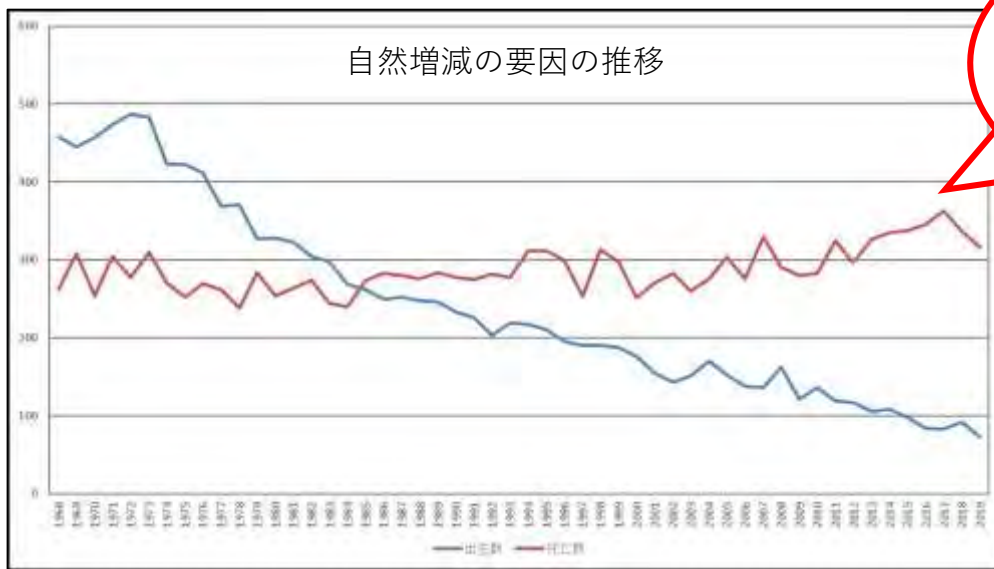


少子高齢化が進んでおり、このままでは、45年後の人口は現在の3割以下となる推計
 人口が減ると、税収は減る。今までどおりの行政を行おうとすると1人当たりの行政コストは増大する。

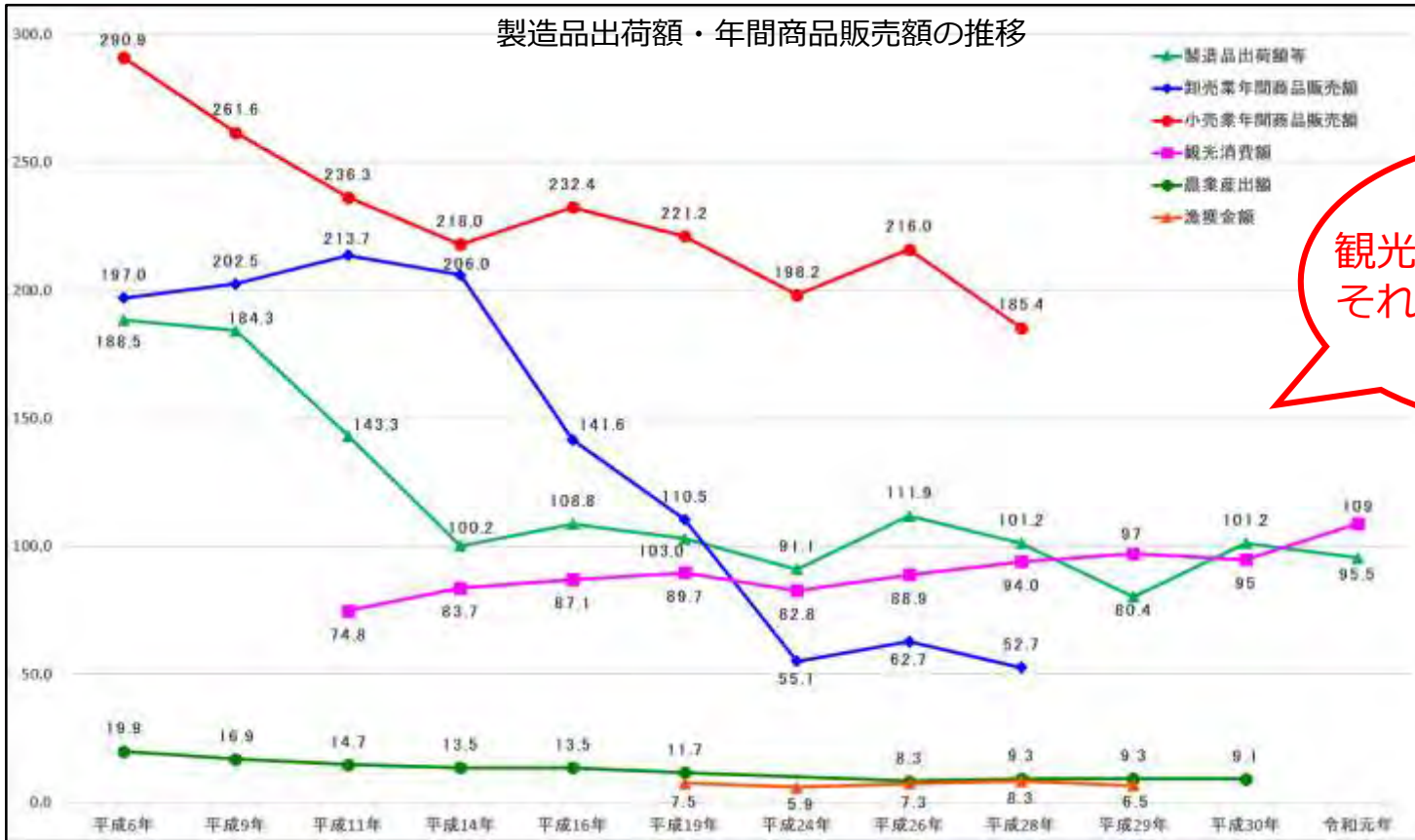
要因別の人口増減の推移



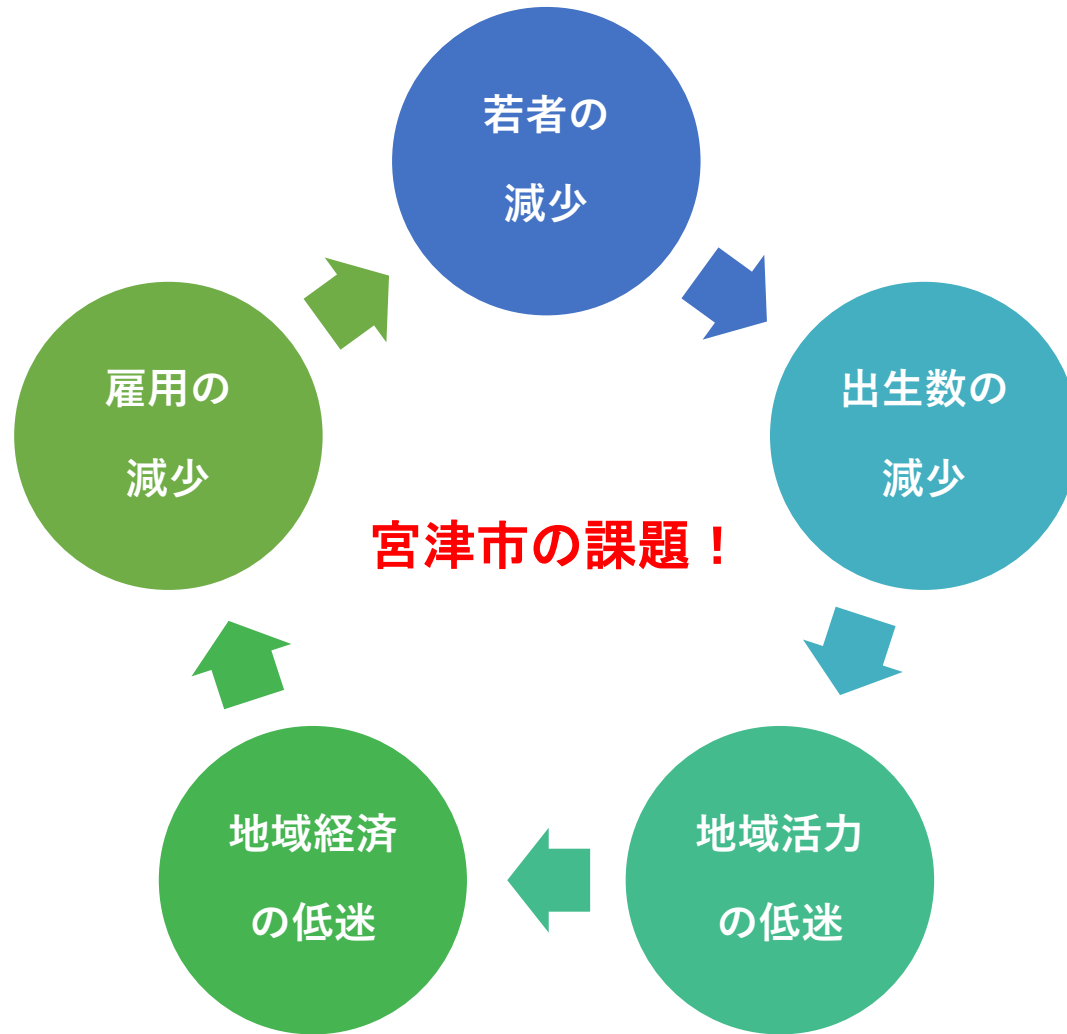
自然増減の要因の推移



製造品出荷額・年間商品販売額の推移



観光消費額は増加傾向
それ以外は減少傾向



課題解決
のために

宮津市の
新しい総合計画が
はじまります。
(R3~)




宮津市長 城崎 雅文


第7次宮津市総合計画の全体像

目指す10年後の将来像


共に創る みんなが活躍する 豊かなまち “みやづ”
これから10年、みんなが主人公となり、まるで橋のようなまちをつくっていく

2つの重点プロジェクト

 **若者が住みたいまちづくりプロジェクト**
若者の住みたい気持ちをつくり、人を宮津に渡らせる


 **宮津の宝を育むチャレンジプロジェクト**
人と物を育て、魅力を全国へと発信し、お金を渡らせる


5つのテーマ別戦略


経済をつなぐ

地域経済力が
高まる
まちづくり

人をつなぐ

住みたい、
住み続けたい
まちづくり


安心をつなぐ

安全・安心に
生活でき、
環境にやさしい
まちづくり


未来をつなぐ

健康でいきいきと
幸せに暮らせる
まちづくり


文化をつなぐ

ふるさとを大切に
学びを深める
まちづくり

将来像実現にむけた5つの視点

市民協働


Society 5.0


SDGs


ウィズ/
ポストコロナ


健全な
行政運営


2021年度からの10年間

若者が住みやすく、子育てしやすい環境を重点的に

「若者が住みたいまちづくりプロジェクト」 ～若者が住みたい気持ちをつくり、人を宮津に渡らせる～

子どもを産み育てやすい環境

妊活から就学前までの子育て・子育て支援
【子育て支援の重点方策】

質の高い学力の育成・学校教育環境の充実
【学校教育の重点方策】

仕事と家庭の両立と女性活躍の促進
【男女共同参画・女性活躍の重点方策】

若者が住みたいまちづくりプロジェクト

宮津ファンの増加から関係人口創出・拡大
【関係人口創出・拡大の重点方策】

Uターン強化・移住者の呼び込み
【移住・定住促進の重点方策】

地域の課題解決のための外部人材導入
【地域コミュニティ・市民協働の重点方策】

若者や子育て世代が住みたくなる地域

合計特殊出生率UP、
若者人口増加

宮津市の
現状

厳しい財政状況

職員数の減少

このような中、

「若者が住みたいまちづくりプロジェクト」を実施し、
若者が住みやすく、子育てしやすい環境を作るには

地域の強みや要因、課題の分析を行い、
効果的な対応策を実施していくことが重要！

そのため、

内閣府モデル事業を活用し、有識者の助言を得ながら
客観的・主観的な分析を行い、対応策を検討！

調査研究事業の流れ

① 少子化の要因に関するわがまちの特徴とその要因仮説を整理

少子化の要因		わがまちの特徴 客観分析：県・全国値との比較／経年比較	特徴の 要因仮説
転出入	若年層(15～24歳)		
	子育て世代(20～49歳)		
有配偶率			
合計 有配偶 出生率 ／ 出生率	1人目	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 10px; border-radius: 15px; display: inline-block;"> 国勢調査・人口動態調査を基に、表を整理 </div>	
	2人目		
	3人以上		

② 要因仮説の裏付けとなる統計データ等の整理・分析(客観分析)

③ 子育て当事者の意見を聞く(主観分析)

④ ②と③の結果をまとめ、少子化の要因を整理し、見える化

⑤ ④を基に、新たな施策の立案や既存施策の見直しを実施

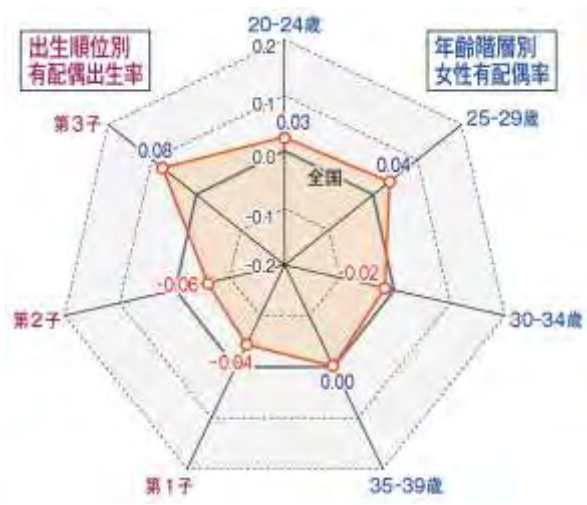
各段階で有識者
や京都府から助
言

調査研究事業で取り組んだこと①

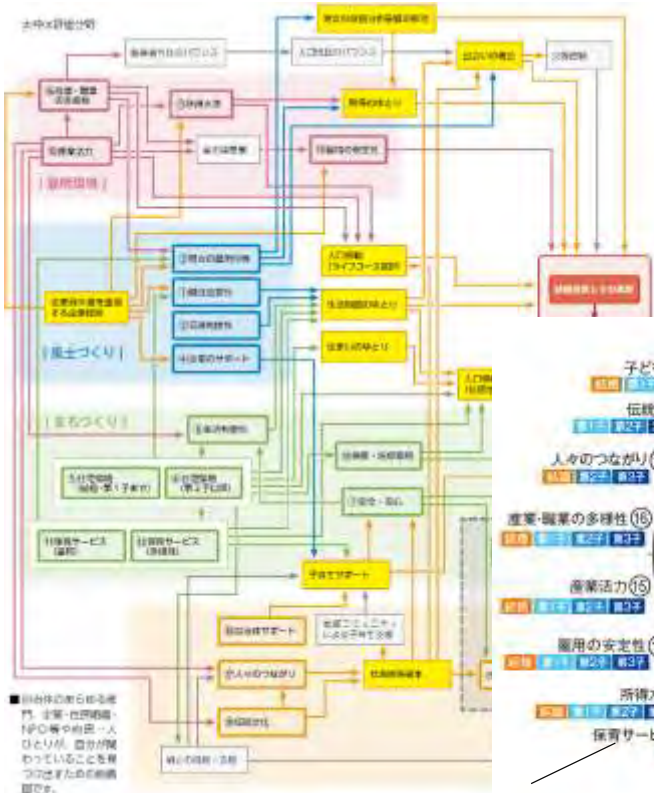
- ① 少子化の要因に関するわがまちの特徴とその要因仮説を整理
- ② 要因仮説の裏付けとなる統計データ等の整理・分析(客観分析)

・京都府作成の『地域子育て環境「見える化」ツールver.1』を活用し、出生構造を分析

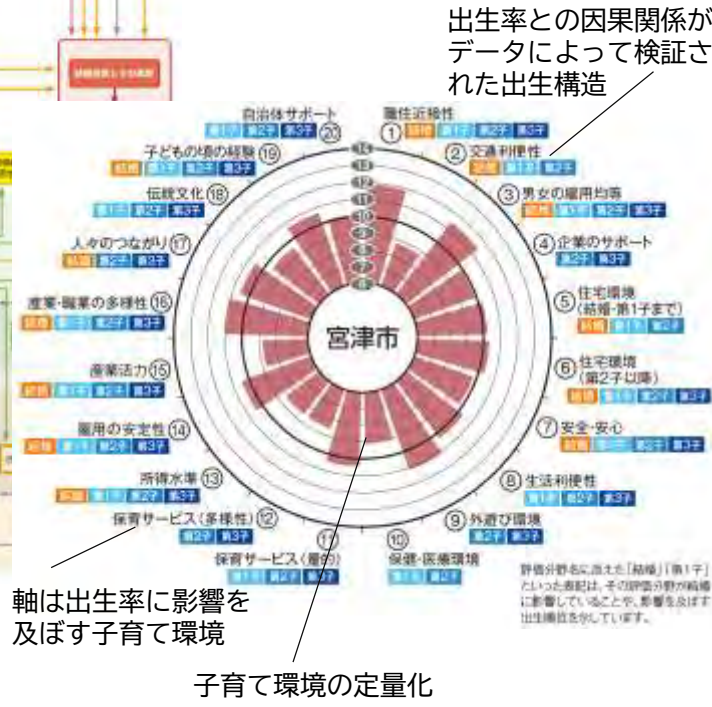
出生構造レーダーチャート
(2015-2018年、全国 = 0)



子育て環境因果フロー (例示)



子育て環境レーダーチャート
評価分野のスコア、市町村平均 = 10)



出生率との因果関係がデータによって検証された出生構造

軸は出生率に影響を及ぼす子育て環境

子育て環境の定量化

資料: 京都府「地域子育て環境『見える化』ツール ver1.0」(2021年3月)

・国勢調査や住民基本台帳人口移動報告、転入・転出へのアンケート結果(宮津市独自)等を分析

調査項目	調査データ	分かったこと
近年の社会増減(転入者数－転出者数)の推移(20～39歳)	住民基本台帳人口移動報告 ※H30～外国人含む	舞鶴市や与謝野町、京丹後市への転出が多い傾向
年齢階級別人口移動の推移	国勢調査	15～19歳→20～24歳は転出が多い 20～24歳→25～29歳は転入が多い 男性と比べて女性は、20～24歳→25～29歳の転入が少ない。
20～39歳人口の男女比	国勢調査	平成12年以降は、女性より男性人口が多くなっている。R2で女性は男性の88%
49歳以下女性の社会増減	住民基本台帳人口移動報告 ※H30～外国人含む	転出が転入を上回っている。
女性の転入・転出のきっかけ(10代～40代)	転入・転出者アンケート (2月～4月)	転入：仕事や結婚・独立が多い。 転出：仕事や進学、結婚・独立が多い。
世帯所得額	(株)ゼンレンジオインテリジェンス「個人所得指標」	近隣市町より低い。
市街地の地価	地価公示・地価調査	近隣市町より高い。

調査研究事業で取り組んだこと②

③ 子育て当事者の意見を聞く(主観分析)

○子育て支援センター「にっこりあ」を利用する子育てママと市長の座談会

日時 令和3年7月28日 10:30~11:20

場所 子育て支援センター「にっこりあ」

参加者 参加者19組(宮津市10組、他市町9組)

内容 子育てに関する悩みや要望、地域に望むこと等について意見交換
意見(一部)



◆日頃の悩み、要望等

- ・こどもを連れて出かけられるところを探している。音楽や映画など楽しめるところがあつたら。外でも楽しめるところがあるといいな。
- ・子どもを連れての外出が難しい。子どもを遊ばせながら食べれるところがあればいいな。
- ・ベビーカー、チャイルドシートの貸し出しや補助があればいいな。
- ・上の子の時にはあつたが、ゴミ袋がもらえなくなった。またもらえるようにしてほしい。

◆母同士のつながり、つながりやすくするためには？

- ・子どもが3ヶ月の頃に転入。近所の方が散歩していると声をかけてくれる。近所の同世代の人が声をかけてくれて、子育てサロンやにっこりあを紹介してもらつた。
- ・コロナで難しいが、祭りとか近所の人とふれあう機会があれば。
- ・「ちえのわ」みたいな地域の民生委員が関わってくれるような場があればいいな。
- ・ママ向けの行事がない。何かあればママ同士のつながりができるかな。

◆地域全体で子育てにやさしいまちづくり

- ・お店にベビーチェアやこどもが遊べるおもちゃ、本、トイレの補助便座があるといい。
- ・子どもを連れていく店がない。周りの人に迷惑がかからないように個室があるといいな。
- ・にっこりあで預かってもらつてゆっくり買い物ができるとうりがたい。
- ・あらかじめ子ども歓迎の施設かどうかわかれば入りやすい。

○子育てサークル等を開催する子育てママを対象にワークショップを開催(3回)

○参加者

- ・子育て当事者 子育てサークル等主催ママ 4人
子育て支援センターにっこりあ職員 1人
外国人ママ 2人(第3回のみ)
- ・コーディネーター 2人
- ・市職員(社会福祉課・企画課) 4人



第1回 令和3年7月21日(水) 10:00~12:00

- ・子育て当事者が考える少子化の要因は? 少子化対策は?
→若い人が少ない、土地が高い、煩わしさ、高齢出産、出会いが少ない等
- ・子育てサークル・支援活動を行っている保護者同士の連携、組織化
→文化活動や芸術に触れ合う機会が少ない、地域との関りを土台に子育て活動をしている等

第2回 令和3年9月22日(水) 10:30~12:30

- ・各団体の活動の共有
- ・子育てと地域との関わり方について
→お金や時間をかけず集まれる・しゃべれる機会を作りたい、子育て中のママが持っているスキルを様々な場面で活用すべき、父親の行事参加等

第3回 令和4年1月17日(月) 10:30~12:35

- ・外国人ママの感じていること
→日本語が分からない中での出産や健診に困った、日本語を学べる場がほしい等
- ・ママが幸せを感じる場所とは? あったらいいなと思うこととは?
→子連れでお茶ができる場所、ちょっと子どもと離れる時間、ちょっと働ける場等

◆ワークショップでの一コマ！

第2回ワークショップで出た意見
今後の子育て支援を考えるのに重要なポイント！ **ママが幸せを感じる場所はどこ？**

本質的なデータに迫ることも大事では・・・？

第3回までに市が考える「ママが幸福感を感じるであろうと思う場所」を
リストアップ！

- ・市立公園54箇所、カフェ32箇所、ヘアサロン34箇所、エステサロンなど
- ※インターネット等でカテゴリーに該当するものを**網羅的にリスト化**
- ※実際に子育てママ達がどう感じているかは度外視

第3回でリストを基にママの考えを聞く！
意見交換や協議のネタになれば

第3回ワークショップで出た意見

- ・カフェにスナック形態やタバコが吸えるお店が入っている。
- ・子どもと行ったことはない。
- ・宮津では、子どもを連れてお茶をしに行くという文化がないように感じる。
- ・子どもがぐずると迷惑になると思うと、イベントも参加しづらい。 …などなど

仮説

あえて、カフェなどには行かない？

仮説

利用できるお店が知られていない？

仮説

利用しやすい環境になっていない？

迷惑に思う人がいる？

仮説をたて、施策につなげていければ・・・

○子育て世帯(18歳以下の子どもがいる世帯)を対象としたアンケートの実施

対象者 18歳以下の子どもがいる世帯

調査方法 インターネットアンケートを活用し、

- ①宮津市こどもすくすく子育てLINE登録者、
- ②宮津市子育て支援センター「にっこりあ」利用者 に呼びかけ

回答者数 97人(女性77人、男性20人)

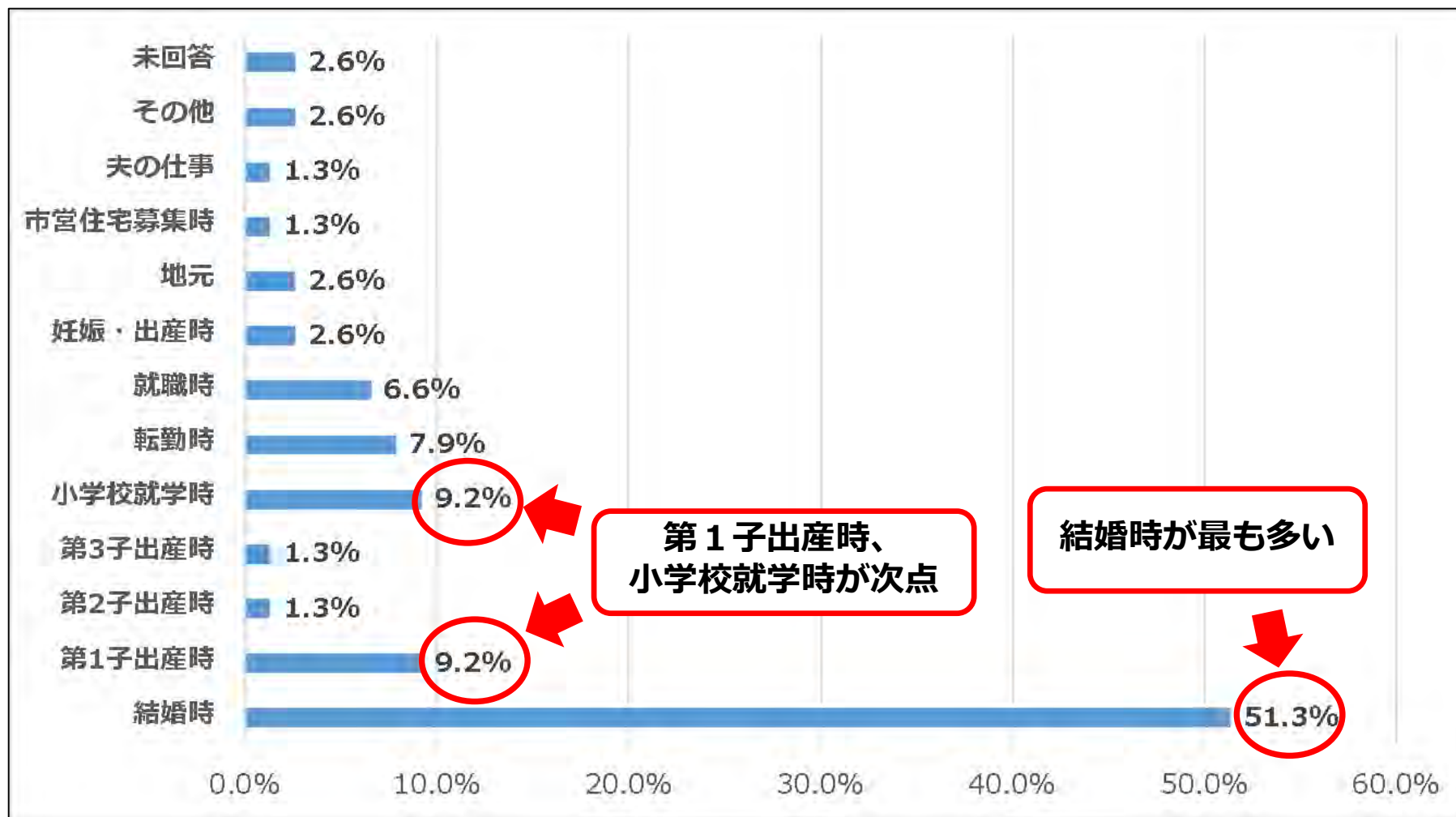
質問内容

- ・現在の地域に住むことを決めたタイミング
- ・現在の地域に住むことを決めた際に、悩んだこと
- ・現在の住居形態
- ・現在の地域に住むことに至った理由
- ・欲しい子どもの数 ※子どもの数が1人の人のみ対象
- ・第2子以降を出産される場合、現在の住まいに住み続けようと思うか
- ・若者や子育て世帯が宮津市に戻ってくるために、必要なことな何か ※市民対象
- ・地域の風土や子育て環境に関して、宮津市のポジティブなところは何か ※市民対象
- ・地域の風土や子育て環境に関して、宮津市のネガティブなところは何か ※市民対象
- ・宮津市の子育て支援(施策)で良いと感じるところは何か ※市民対象
- ・宮津市の子育て支援(施策)で良くないと感じるところは何か ※市民対象
- ・宮津市でもっとこうしたら良い(あったらいい)と思う子育て支援(施策)は何か ※市民対象
- ・お住まいの地域の子育て支援(施策)で良いと感じるところが何か。 ※市外対象
- ・お住まいの地域の生活文化や地域性などで良いと感じるところは何か ※市外対象

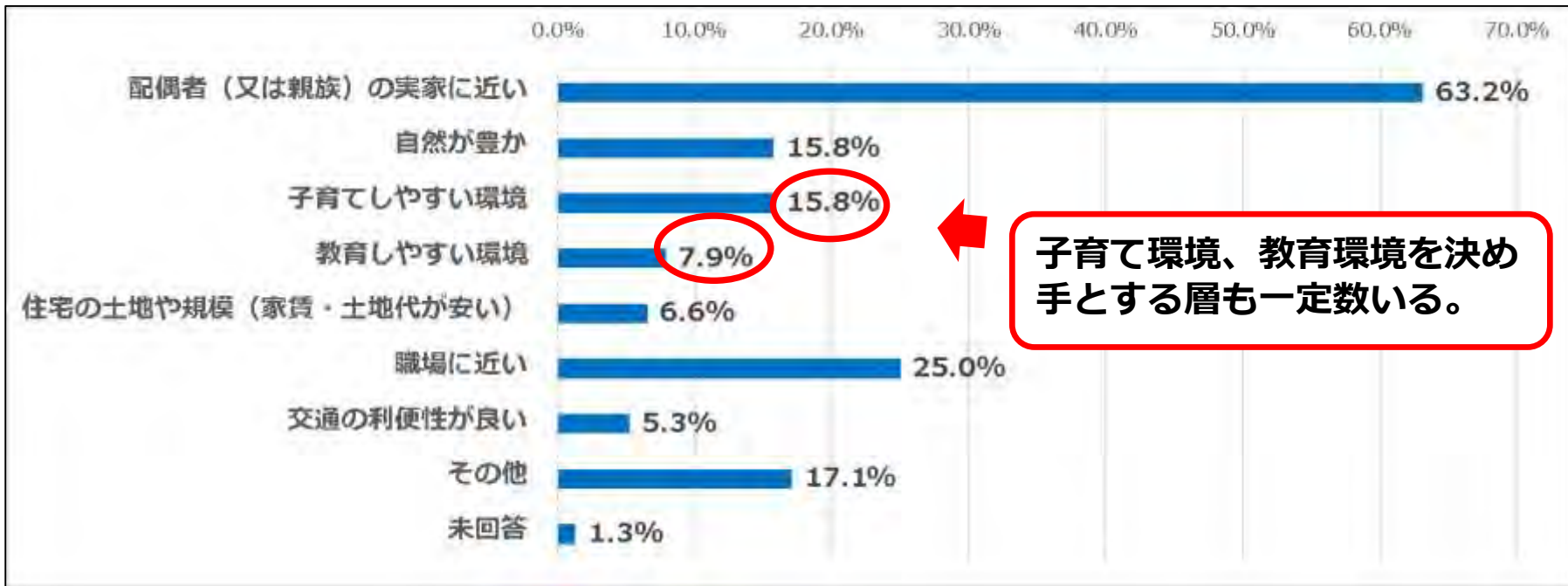


アンケート結果(一例)

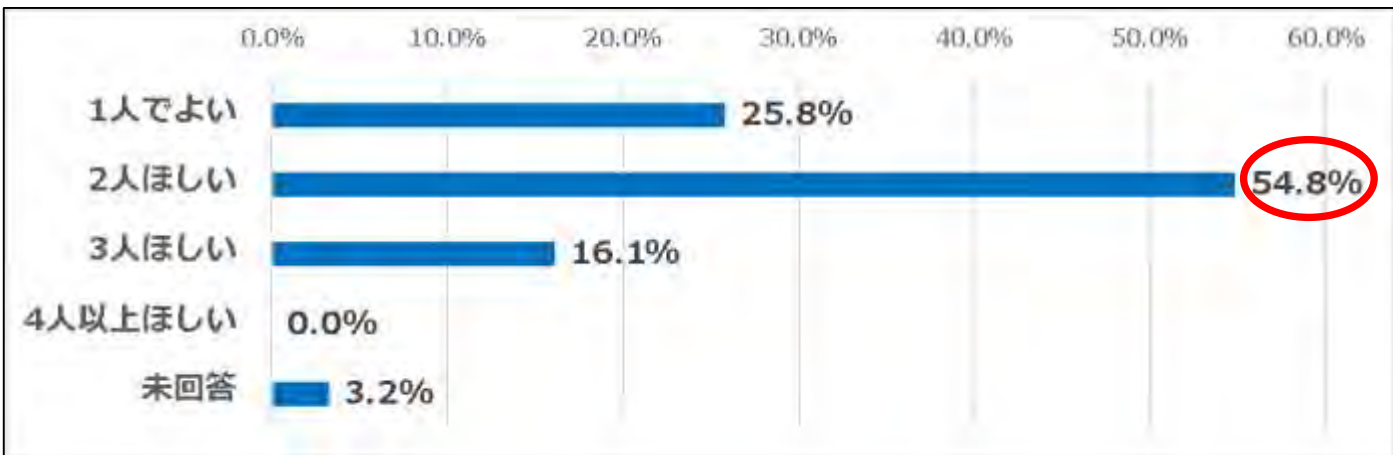
Q6.現在の地域に住むことを決められたタイミングは、次のどれですか。



Q11.現在の地域で住むことに至った理由は何ですか。

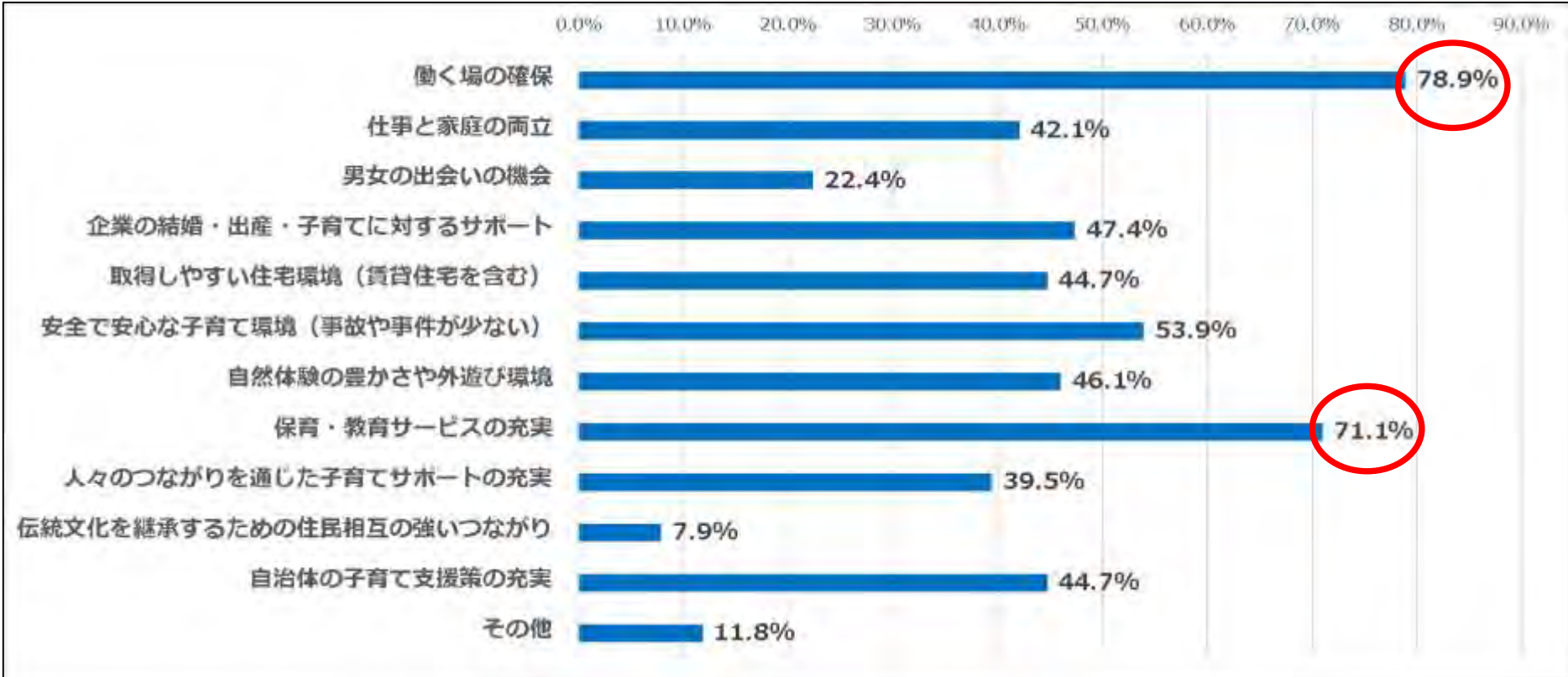


Q13.お子様が1人（Q4で1人）と回答された方にお聞きします。お子様は何人までほしいと思われませんか。



2人ほしいと思っている割合が高い

Q17. 若者や子育て世帯に戻ってきてもらうために、必要と感ずることは何ですか。

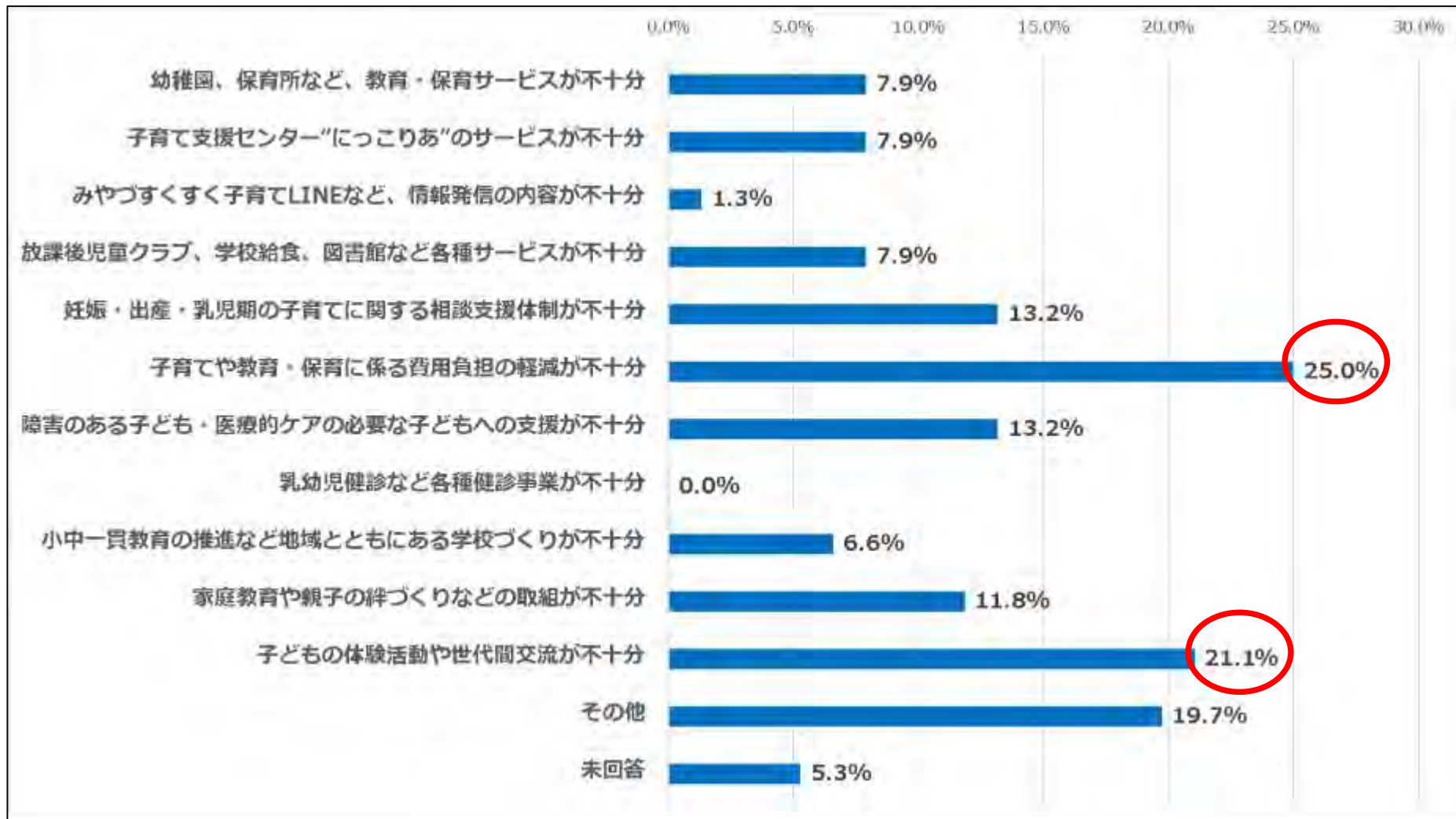


↑

- 働く場の確保
- 保育・教育サービスの充実

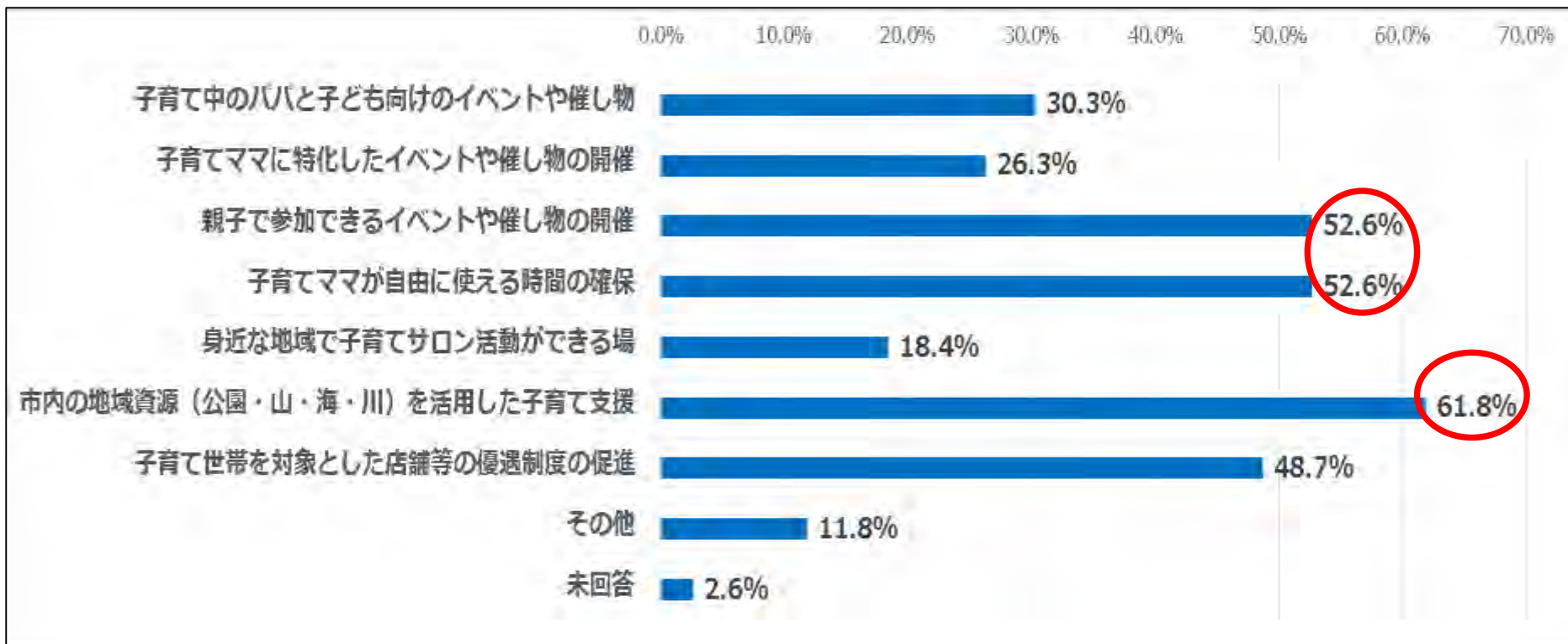
が必要と感ずている

Q26.宮津市の子育て支援（施策）で良くないと感じる所は何ですか。



- 子育てや教育・保育に係る費用負担の軽減
 - 子どもの体験活動や世代間交流
- が不十分と感じている

Q28. 宮津市でもっとこうしたら良い（あったらいいな）と思う子育て支援（施策）は何ですか。
[複数回答]



- 市内の地域資源を活用した子育て支援
- 子育てママが自由に使える時間の確保
などが求められている

ご清聴ありがとうございました。

10年後に向けて始動

まちから外へ、外からまちへ。

すべてが活発に行き交い、そして暮らしを豊かに高め合う。

そんな橋のようなまちを、宮津はこれから10年で目指していきます。
天橋立に負けない（はじない）くらい、魅力的でワクワクできるまちへ。

さあ、10年後の未来に向けて、

共につなごう。

宮津 という橋を。